

# 島之内教会だより

第26号 2014年9月発行

〒542-0083

大阪市中央区東心斎橋1丁目6番7号

TEL&Fax 06-6271-8202



<http://shimanouchi-church.org/>

[shimanouchi@occn.zaq.ne.jp](mailto:shimanouchi@occn.zaq.ne.jp)

で取った行動だけど、タイムミン  
グや自分の勝手な考えで気持ち  
を左右されてしまいます。そし  
て、あなたがやっつけていなくても、  
友達にそういうふうに取り立て  
しまうのも認識の歪みと言え  
るかもしれませんね。」と言っ  
てくれました。

先生の話を聞くと、ふと  
6月発行の「島之内教会便り」  
に木戸先生の「完全な喜び」の  
ワンシーンを思い出します。  
「旅で疲れきった聖フランシス  
コ達は、修道院で門前払いされ  
ても、あらゆる苦しみ、不正、  
恥、不快に耐えて、キリストの  
苦難を思い、キリストへの愛の  
ために苦しむことができるのは  
完全な喜びであるでしょう。」  
と書かれていました。私には到  
底無理でしょうね。悪いことを  
していないのに、あまりにも酷  
い仕打ちだと自分のことばかり  
考えてしまいそうだから。でも  
いつか私は主イエスをお手本に  
して、自分の話し方をわきま  
えて、不信のものが「さすがキ  
リスト者だ！」と思ってくれて、

キリスト教徒になってくれば、  
これほど嬉しいことがないと思  
います。中国には「損すること  
は福である」と言う諺があり、  
よく考えれば厳しい試練に遭遇  
するからこそ、そこで賜ること  
の出来る神様の大きな恵み、完  
全な喜びかも知れません。

「認識の歪み」であっても、  
どんな悲しいことに遭っても、  
キリスト者であることを第一に  
考えてキリスト者にふさわしい  
行動をすべきだと改めて痛感し  
ました。そして、その後「辛い  
思いをさせてごめんね！」と友  
達に心を開いてお詫びしたら、  
その友達と仲直りができました。  
これからも主イエスの教えに  
従って、主イエスだけを見て、  
日々努力していきたいと思いま  
す。



上田 一郎

## 夕暮れにも 光がある

ゼカリヤ書14章7節

ハレルヤ。最近強く示された  
いのちのみ言葉「たとえお前が  
驚のように高く昇り、星の間に  
巢を作っても、私はそこから、  
お前を引き降ろすと、主は言わ  
れる。」(旧約、オバデヤ4章)  
有名な天満教会・春名康範牧  
師の「人生一寸先は光」も強い  
印象。

私の祖父上田貞治郎が、明治  
18年、初代上原方立(熊本バン  
ド出身)より受洗しているの  
で、島之内教会は私の心の故郷とい  
える。

堺ハゼ教会より転会して5年。  
私も86歳。新大阪北で20年目。  
自宅で休養中。駅近と回生病院  
の真ん前が高齢者にとって便利。  
私は関西学院大学経済学部OBで  
本年は125周年「目を向け、明日  
を想う」

山路こえて一人行けど、主の  
手にすがれる身は安けし(旧讃

美歌404番)。主にありて、日々、  
これ好日といえる。  
(注)フィリッポの誕生日8月17  
日はインドネシアの独立記念日  
である。



### 【編集後記】

新しい印刷機を購入し、牧師先生  
が写真を配置くださり、美しいカ  
ラーの「島之内教会だより」26号  
を発行することが出来ました。8  
月10日は台風のため出席者は10人と  
少なかったが、IPPさんの送別  
会をカナホールでした。IPP  
さんの太鼓に合わせて賛美を捧  
げ、皆様からのお餞別をお渡しし  
ました。わたしはあなたを、もろ  
もろの国びとの光とし、わたしの  
救いを地の果てまで、もたらす者  
とする。(イザヤ49:6) 私たち一  
人一人が神様に選ばれ、すべての  
人に伝えていくつとめを与えられ  
ていることを覚えておきたいと思います。  
(河野まり子、和田純子)

## 隣人を自分

### のように愛しなさい

ルカによる福音書10章27節

日本基督教団  
島之内教会 牧師  
木戸 定

に救われる  
には、どう  
したらいい  
のか、その  
質問に隣人  
愛に生きる  
ことが大切  
だ、と言わ  
れたのです。  
しかも、イ  
エスは「敵  
を愛し、自  
分を迫害する者のために祈りな  
さい」と言っています。そんな  
ことできますか。イエスは、で  
きないことをしなさいとおっしゃっ  
たんでしょか。

イエスの教えの中核は「愛」  
であり、キリスト教は愛の宗教  
とも言われます。とすれば、ど  
うしたら人を愛することができ  
るのか、敵を愛することはどう  
いうことなのか、もっともつと  
それについて書いた本があつて  
もよさそうなものですが、浅学  
にして私はそういう本にあまり  
出会ってきませんでした。  
しかし、イエスの言葉をよく

見てみますと、そのヒントが隠  
されています。つまり、隣人を  
愛する前提として自分を愛しな  
さい、と言われているのです。  
自分を愛するとは、自分が好  
きになればいい、自己嫌悪を止  
めなさいということではありません。  
むしろ、愛する前に自分  
というものを知ることが  
必要です。ある心理学の本に  
「自分」には4つの側面がある  
と書かれていました。①私も他  
人も知っている「自分」②私だ  
けしか知らない「自分」③他人  
は分かっているが私は気づいて  
いない「自分」④他人も私も知  
らない「自分」。こんなふうに  
説明されてなるほどなあ、と思  
いませんか。

イエスが弟子たちに、こう言  
われたことがあります。「人  
は、たとえ全世界を手に入れて  
も、自分の命を失ったら、何の  
得があるのか。」(マルコによ  
る福音書8章36節)つまり、  
生きている間に、名誉や財産、  
地位や権力など、自分の欲しい  
ものは何でも手に入れることが  
できたとしても、「自分」がど



ムの間での働きをしているハンナという宣教師を訪問しました。ハンナさんは独身で、ほとんどが仕事とビザを求めて来ている男性たちに伝道しているのを見て、夫婦の助けが必要であると考え、祈っている、イッポとマリラ夫妻という名前が思い浮かびました。日本に帰国した彼らから、私たちにこの働きについて祈ってみてくださいと言われました。



左からイッポさん、ジェミマちゃん、マリラさん、ヨシュアくん  
2014年8月3日 島之内教会カナホールにて  
※ンガンガ・イッポさんの連絡先: ngangahippomalila@yahoo.fr

私たちの時間を取って祈り、今までに神さまから語られたことをすべて思い起こし、これは神さまが開いてくださった扉だという確信が与えられました。また、イッポがつい最近パリとブリュッセルを訪問して、その民族の何人かに会った時、その人たちの深いつながりを感じ、この人々こそ神さまが私たちに弟子とするようにと召してくださいました。2014年8月、未伝道の民族グループを弟子とするために様々な賜物を持つ人々がともに働くネットワークです。

この間、笑っていないのに「あんた今嘲笑いして、私を馬鹿にしたね」と些細なことで、友達に誤解されました。やっけないことだから、しつこく指摘されてしまい、あまりのショックで久々に怒りと落ち込みを覚えました。たまたま木戸先生に話を聞いて頂く機会がありまして、先生が静かに耳を澄ましてくれました。

た。先生は「認識の歪み」って聞いたことがありますか？と質問して、説明をしてくれました。例えば、窓を開けた瞬間にビルの向かい側にパタッと窓を閉められたらどう思う？と聞かされました。「うん、気持ち悪くなるかもしれないね」と私は答えました。先生は「それが認識の歪みと言います。あなたが窓を開けるのも向かい側の人が窓を閉めるのもそれぞれの思い



教会の看板のご奉仕をしてくださっています！

暁 キリ

認識の歪みと 完全な喜び



ういう人間であるかを知らず、自分を愛することができないまま人生を終えることになったとしたら、それほど悲しいことはないではないか、そんなふうを理解することができません。

「私は、どういう人間なのだろうか」と、一人部屋にこもって思いめぐらしたとしても、自分という人間がいかなる存在であるのかを知ることができません。

しかし、たとえばこんなふうを考えてみればどうでしょうか。私は、どのような両親のもとで生まれ、育ち、どんな影響を親から受けてきたのであろうか。私が生まれた時代はどのような時代であり、その時代からどんな物の考え方、価値観を自分の

考え方、価値観として生きてきたのであろうか。私は、これまで、どのような人生を生きてきて、どんな失敗をし、どんな成功をし、どんなことに喜びを感じ、また悲哀を味わってきたであろうか。そんなふう具体的に焦点を定めて、自分を客観的に見つめてみると、「自分」というものの姿が見えてきます。そして、自分は残された人生をどのように生きてゆきたいと願っているのだろうか。世間が、こうすれば幸せになると言うから、そのように生きるのではなく、これまで生きてきた成功も失敗もある歩みの中から、ほかの誰でもない自分は、ほんとうはどう生きてゆきたいと願っているのだろうか、そう自分に問いかけて、答えを自分で見つけることが、ほんとうの自分に出会う一つのステップになるはずだ。

友人・知人が「自分」をどう見ているのか、率直な意見を聞いてみることも大切です。耳の痛いこと、反論したり言い訳を言いたくなることをたくさん言

われれば儲けものです。それがほんとうの自分を知り、ほんとうの自分に出会ってゆく一つの歩みだからです。そして、そういう自分を受容し、そんな自分が周りの人から許され、じつは愛されていたんだ、という気づきが与えられる、そこから私たちは隣人愛に生きることができるようになるのではないのでしょうか。「あなたの隣人を愛しなさい」とイエスキリストの言葉が耳で聞いたり、文字を読んでいただけでは隣人愛に生きることはできないのです。

して間もなく、主は私たちに、日本を離れ他の国に行くようになることと語られました。私たちはそのことについて祈り始め、また多くの神のしもべである人々から同様のことを告げられました。私たちにまだ子どもがいなかった時、主は夢を通して私たちに語りました。その夢の中では、私たちに男の子がおり、イッポは周りの人たちに日本を離れることを伝えていたのです。2012年にマリラがオーストラリアのタスマニアに行ったときに祈っている、私たちはフランスに行くとイギリス人とともに働くようになる、と主が語られ、また私たちの指導者であるチャールズから、翌年までに神さまが私たちに扉が開かれると神さまが彼に語ったと告げられました。2013年に、フォーセット・グレアムとルーシ夫妻は、イギリスのリンダ・ハーディングに会いに行きました（彼らはワールド・アウトリーチと2013年ネットワークのメンバーで宣教師です）。また彼らは人はパリに行き、イギリスの母教会からのサポートを受けてムスリ

私たちは、ンガンガ・イッポとマリラと言います。2006年に結婚

イッポさんご一家は、今年の11月フランスで新しい生活をされることになりました。これからの歩みの上に神さまの御守りがありますように祈りいたします。

ンガンガ・イッポ